へ 5
5801

二篇千句

へ5
5801

三鴻千句

何路 寸一

宗祇獨吟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なしへのうすん色をもうきもまよ
やとりんこてそにゑのえ々紫こと
ともぬれにはくまけすまて
いけうは治中けき人者梅移
かくこし年者えやはまてしま
まりおいやまに星合のあや
月のやうろえなし御しなの言
おり人しは八得有もうしみて
もしく人はおもるん雨やとの
ちりけすくおもしいそくるしよ
この比のもり花く江をいれく

こはしなくき年き也の名きや
ゑまみのしきの便いくどかしと雲ふ
いまいぬのまて君つる招きあま
ともさしよれやあやさいそくらん
枝まあるかすし一山の陽あり月
身をすてん福もくらいの社深く
家はなふとのおしいのこきん
ちりの世りは至しもたる含れ
こりしなさおもひしよりまいしや
あかれりも浅者しき古ら山きて
かやめの幸すりくきれ 旅人

けうしらん門や錦すゝしらん
まことまなしい里青柳のなけ
水のいろ花のかをり気きくさく
野辺うらゝすむ川音をきく
あまかけるつきに乙くれて日より
行けりやとすれは風香ほすく
やましろ寺社山城西の方見へく
雨に立りけりにつてゝいつく月
正なられのけやかりのけ白くん
こゝらにらいわたをもとまのし
おもひ乃に鳥井あれなくいさなふ心

御池のほとり清すうこしに
まし水のきよしにとうと水仏
よしの山とみはなれはあれし
なふさんは御出くのそふの御
ましこおふきそけよのそ御のは
さらしもしまのこと鳴やなき新花
みたに庭さされみまつしまりり
波まをれまくるり月やとて
おりしいかけしの羽とうもいに
夕雲の花一ほ東海道寄備
かしくとりともよてとこくよ

[illegible]

何松中二

[illegible]

つまにたりといはく代見し給らん
まみれ木巣ま坊のしるべ
あけもけし深山こえしも月に沈く
行く水はしれや若も帰らり
契りてし折の京のことば
ふれしは風もめぐりなくらん
了朔出し寺務の井ぎり渡
きみよのはいはし鳥の逸
されぬ当るなしみの山りてん来て
こゑ中山やまを見てぬりぬ庵
世の中は旅の一夜の宿ならじや

夢ならずば小ぐくまく余
いりこんのもよにりんくいさうに
中弥まるゐりれし待やと
携行く桜山けしいあさとあく
後ことや折りも志賀の都の人
花さかやとうしみくてる枯まま言
たつあは月もかりあすのおもし
露あらしとまるあまのくようつらん
了は名ねてや君もれぬち
のむ酒りあ代つこさくやこの世お
よろ代あおせ何ぞれきへ物のし人

淀川は松か下ふしは江とうけく
舟の下くたる高ね吉山かけ
けふし火の雪のまつ毎明ゆかり
いつくともなく滝の音をけさ
見る月しあ月と晦中は磨まこて
きこうたわかれ我からまれ
はあ斧やいつかよる色つらん
うつろ者庵へいはしへの庵
山の舟ありくてよめのたりあ
にまれしよま人なふこりわし
かくいけるあまのされ難波寺

雲はた中よりおりぬ松人
出るたこやの五月雨日数重く
ゆたらはいはしきれそしいるしわ
我なみさまのこやたなもしん
なかのとあれ手枕書月
ほとりきとやましいへをゆをまた
いつほれ山者をこのうら
舟そたのかの川上磨なりにく
うつれてやしられ旅人
きれ来し世しや風しいもつきめん
みつれうきみなるかありそう

かれ色に花もよしいつ雨やみて
りみだれしやうかくやうしき春
雪よりくれ畑のはなのすゑもよし
まさしとぞすさまじいあはれの瀧
はなばなさいて咲ていつもりや
おもしろくそよぶばかりでなれ
わきてよやあらたに秋の月のりく
をさこそいよりもちれるくしら
いかなるをしても秋いづれに物氏
なかれたいりおきに光る夕暮
わらそぬ身はまくらぬはしくて

きみりいなふかいのちはりまさ
風さうた秋あれまして作あめや
いはゞいさめん袖ものゝ雲
山どとくこ縁ある月よかこさそく
なかれをかりやおとすしくさくる
水まのみゆれ秋の高葉して
霜より野らの言れもしにた
いかり秋人冷しきいかのゝ枕
わさらぬそて秋ら風となけき
そうぬる塩ひいり山とさうかりて
いかとしげみならともあれそて君

わりけれ絶二ばとしさもれ波よ
承ゟ并りなりぬ田舎の諸聲
ましてれもの暮れ浮く
うちあはにしよしつらぬおや
やまやまりい君が代は千つん
みえりなれおも色かつれころ
深ありまめしらくされ毎て
もしや御見のきとつるさ
よめなばいふめと小松の亭
うきるなれて人いけと伝ゟ
地こふこて洞甚と海の年をけく

りすくいふま能あ　空
掃り右手の四学の江いれし
そいのくろ神にめつん
よしおて山のしあれ月とて
まあはのこ事業のた君ら
事いしの所となむ陽るこん
れ古らよなくこしのれ
侍らはきり家のまうに為り
わきまれ（印）そりし代はまし

何人

[illegible]の花の往来[illegible]
[illegible]の寿さ[illegible]
[illegible]
[illegible]
月[illegible]や[illegible]の[illegible]
[illegible]
物[illegible]
一[illegible]の[illegible]
[illegible]

なくしのあはすまん業[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

うちの人松吉悔こゝちなやまん
よしあさましけはらめでたし
うた詠はたゝかわりけしはまくし
なにさふらへはを ぬ堂山みち
時雨を吉めしわよろしく
きこゆるものへぬ 松の木古 庭
年まゝ月しれう見ぬしし
花もあまた桃のゆふへれし
雲りゆへうれぬかいやらぬらん
なにゝあかしさらはせりもきこえず
しら柳もむしれかゝり花山

ますましさりぬるめしらむ
ねめ花ともいふにあらくひしく
参出るにより 清水の流
わかれいやみゆきに変はつりのみん
身はいやしくかはたちまうした
しかはんぬきゝりしぬるのと
わかぬからともに 新里てれらん
すゞ風よ 宮のつはまき山中
わりまり月のそりまゐら
風よるもの松風もむ宵まり
梅おやかく 松すしもそ 帰

[illegible]
[illegible]
人あのいとをせいろうふう
すうしゆいいとせん
とゆゆゆやとふやとふ庵
まて寅とくまたはまもとゆ
ゆ一東ハ月を入とやいるゆ
かゆうめたに衣くまみち
他の事ハ人おもつたむ夜て
このおさとまみをるしりて
このてゆけく荒とまれ山

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
足ゆ西ゆ猿まを東く
海山しうはけいこうるさみて
[illegible]
[illegible]
牛[illegible]東前おし
[illegible]
[illegible]

磯ゝしくらの多すれ東代定らし
うへなれ山より月かゝれ見る
ま萩られめくのさわしかけき侍て
おりくハつるハむかとゝるらん
もと作よハゝくなくへりるい
めりいハ作りたくへりせなに
恋しさのからハ面さこと救多して
あるやしよ思よ酒くまた
こしの山ハハ言ふなきめらん
とそれかと人の宮のしくを
心かりる家のわりしよ月を待る

秋のねあれし絶すしあわれ
帰らんりほとれしかよいハなる
我うたふの身しやと面らん
かつてるし文ともいハ捨てゝ
くめおきとておれりいしれの道
扇ことお山のさ岸はといへど
だにおるえりをましふ思ふ
まり面くしいくの秋のわあまて
ずすハ板屋のにハに作れ
るしくや前るまの葉のかちけを
なみされしましらくのわか

月まりや子ともえやいつの花　鶯
うろたへしとなりの子ゆゑ人
ふるさとや天地の所やせはく
よしいはけくも山はいけ付鳥
いはまくてかたわれのまくれしたる
一本柳なる小路の入江
二かへれどうつし波へだてて
江あをみに段をきて上
とまり舟月も枕もうき寝やり
まみすのさくいはしのとびやり
瓦さらいわるまれいかりしいぬて

いつきゑんの身はいたく鳥
れのがしこなへいかまうかなり
おそくい弥まいきりとまれ

山何　廿日

鶯のそもいちしるしをいひけり
いよいよみえわきて青柳のはて
ふまえ春の川つくえ行て
せ上日の付あまれすく

村しぐれ　櫻一よしらなしいき
人もつゆまぬ気まゝ　原
たのへま猶子語あのなりきも又
偲のまゝかりうすこ月け
ちぬねもあるかなたの夜と戀
年まりありぬかりもてく
あらみでゆるゝ個ゆんみしゆゝん
とつはあてのしるみし語あまき
戀はし所れとりかきのちきかそし
こらに人まちあやりらしをず
まれもいはしれとふさぬし

むしかしよりくりゆかん　下水
名をるみね本葉かりわいく山河
さまのえるむし　冬てまくまろこ
しなさのは宮れしいら結くく
おもりいきちてゝや人を見れん
あひてたしのゝこもすそ我心
いはかりのつかゆうなみし
ねすそのしょりせと捨てゝ
なう人はまことわれかならん
あるきしさらにれ都の安は　庭
人をかとまね　とりぬさくれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
雨[illegible]
[illegible]
[illegible]
風[illegible]
霧の[illegible]
[illegible]
[illegible]

武士はいとまなきに秋の
夜ふけはかりの月をもてあそ
ばんとて
八月十五夜
月はなほいとしろかりけれ
ども
山の端のほのぐらきに
雲の
はたらく
田のもの
庵をいとなむ
海士の子里は
下落葉をかきあつめ
秋八月十五夜
よもすがら
海岸

[illegible]

月をながめくらしかねつつ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何哀 美五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まゝとゝやうけんぬ俺人
秋よりとゝ月ゝとゝとゝもゝん
堂ゝゝゝ

小田苅あるる冬さびしく

初何　箕

[illegible]

春かすみ櫻の実は鐘すりて
きるぬ舟もあるものの
雁かへる志ほやとるらん
[illegible]
立うるる宮[illegible]

[illegible]は[illegible]
はるかの松や[illegible]
[illegible]
草の庭[illegible]月[illegible]
[illegible]
しか[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
まうこしやね寫入こと
[illegible]
こうのりこうり 松の夜話月
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]人[illegible]ぬ宮[illegible]中
[illegible]
華[illegible]
[illegible]
門[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雨しきりにふるに人しひ
おとこのもとより来りける 春花
月も朧なるに
のの明けぬれば
帰りぬるを
おしみ
ゆく人の
桜花
散りぬる
春の
夜の月
かな
人を恨
みぬるや
ゆるしもうるはぬん
ら人をせしを
恨みぬ
ひねもすに
なるに
はまして

春のよ都をあとにする 花
ひねもすのとけ
山の年
春はてらん
ひかりや人
春はてらん
我かうあを
取りつきけ
ひねもす
草葉の露
ひねもす
ひねもす
ひねもす

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松のうらなみのちりきわたつまの
家の庭猶まさりて
うらすさまじ　三の一こゑ
八月の長雨と雨と共に心身に
なりもいたりしわびしきものの
ものしよりあり　かるがるしき宿
まれなるこゑ　高き　哀
ちりきれる人憂しきさま
ぜかまうてそ　たうまうの

三字中略第八

春よりの海にて船の揺わたるおとさうさう
ちりしき梅の花　山のはとあきら
明るとき　宿来て　穴明て
又まく　接の　うをかみるこゑ
かげのうつる　月　あまきうを
拾ふ花い　たまの　稲かまし
又雪より宿とる　波や　波のまき
浦へうつる　旅　うをとる
舟うたう　樵を　ふるこゑ
ふるして　空まる　ふるまね

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
せしたる風まつ花の一さを
[illegible]
[illegible]
[illegible]山さくに
[illegible]月の海の弥[illegible]
[illegible]の林の中の草
[illegible]神をたのまし
[illegible]風もあ
この[illegible]ちまち[illegible]和人
[illegible]吉は神やは[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]大和[illegible]の
[illegible]むさぼて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人さうに秋の曙原にて東
[illegible]

[illegible]

山をく柳本[illegible]
[illegible]
[illegible]日の[illegible]猿人[illegible]
又[illegible]の中や
村雨や夕を[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わすれうらやむ人もあらせじ
秋の野は誰をしのぶの露ぞ
月冷しさ　扇の　清斎
手枕ぬ忘れ草
はつかなる神代のちぎり
小ぶれ行く我人もあれかて
ふるさは山路を宮ぬしぶり
あ花のうしろ人こんこもし
人さいなるも　鐘彼や　峠
ちはひ　春の関の戸
四わすれ　作り　詩

うくれはる小舟の月ぬ
夏の紫しかる水の秋
をさのかるこの高ら蓮
夢ふるこちはよりきかく
横もうすぬ春の雪
木ぬ人をつまてぬる
星乃花やなる駒の足
雪ふる海ふ　ふ
篠原やゆくれ
木ぬ風ぬ　海
秋とふ　秋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新つきゆく庭もましけき

俤八年をもふるさとぬし

月日のすぎしるこゝろかな

住すてわるもの[illegible]

わまとねぬ日とまの浦へはつる水

朝夕の嵐おろしの松ま海

水もいろこゝろ[illegible]

月のうの[illegible]

出の音ちるよのハふけゆきり

鈴ゆゆ[illegible]

[illegible]

三年八清水[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なのはな橋　堂山はいうるん
たゝるも　ゆきの　毎日　引未
さよ風　ふるゆきの　ゆるして
うるやうれ　さく　川　音
ひゝ　名所　ふくね　宮の中
しれとくさ　ふるこうろう
年ゆき　ゆせのかうよりて
ゆり　ふれぬ　しゝ　へゝよ
墨深の　神の　ゆかり　紅もみ
毎　たゝ　ゆるかゝ　春　分
朝日　ゆ　影　つゝ　ふるけて

冬ゆり　水ハ　ふ　しゝ　ゆり
我　ゆ　ふ　ゆ　孫　いも　尾ぬ
ふ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石書はこの枝ふるれて
はすを折りそる墨隈の秋
折ふる小世界秋風小折をけし
寒秋まくらはわうきまを
ゆきよ八月を所面まるふ面めて
雨はけふる小まやそて秋人
をうの外夕紅くのをのふりひ
くうれ人まるうやを憲しき
秋ゆふ花乃陰ともやとそて
まりれるの心をの云
わりかや八業はを寒をこるる月よ

何ふる年三潟乃わ秋はふまき